

文化財修復に関する講演

この度、室瀬和美先生を講師にお迎えし、文化財修復に関する講演会を開催する事となりました。室瀬氏は自身の作品制作活動と共に、国内外において数々の名品を修復されています。

昨今、ユネスコの無形文化遺産に「山・鉾・屋台行事」として富山県内から3つの行事が登録されました。高岡市は高岡御車山をはじめとする県内の有形・無形文化財の保存修復活動に協力してまいりましたが、世界遺産登録されたことを機に、今まで以上に各方面の保存修復に携わる関係者との連携を図り、基本的な技術をしっかり確認し後世に確かな形で文化財を伝えていく必要があります。

今回の講演では、「漆工文化財保存の理論と修理実例」と題し、文化財保存修復の概念、修復工程などを、修復事例を交えながら紹介していただきます。

保存修理に携わる人、これから志す人に多数受講していただき、文化財修復に関する考え方や技法を学んで頂ければ幸いに存じ、ご案内申し上げます。

日時：平成29年 1月16日 (月) 18:30～20:00

場所：富山大学 芸術文化学部 講堂 (高岡キャンパス)

講師：室瀬 和美氏

講演：「漆工文化財保存の理論と修理実例」

受講人数：100名程度

受講料：無料

主催：富山大学芸術文化学部

お問い合わせ：富山大学芸術文化学部総務課 総務・研究協力チーム 0766-25-9139

室瀬和美 (MUROSE Kazumi) 氏 略歴

1950年東京生まれ。漆芸家だった父・春二氏の影響を受け、同じ道を志す。人間国宝の故・松田権六、故・田口善国両氏に師事、東京藝術大学大学院修了。在学中より開始した創作活動と共に文化財保存活動も行い、漆の美を積極的に国内外で発信する。2008年に重要無形文化財「蒔絵」保持者(人間国宝)認定。同年、紫綬褒章受章。日本伝統工芸展にて東京都知事賞など受賞多数。現在、公益社団法人日本工芸会の副理事長も務める。

